



広報

イキシア

2020年9月

84号

イキシアには「団結して事にあたる」という花言葉があります。やっと思いを集めるようになったこの精神保健の分野に理想の福祉を実現する為にあなたの知恵と力をお貸しください。

『検証』居宅介護事業』

理事長 寺田 一郎

七月十五日時点での感染者は全国で二万三、〇三五人、千葉県では一、一八三人、国内の死者は九八五人であることが報道されています（NHK）。前号から三か月で感染者はおよそ三倍になりました。三か月の間に緊急事態宣言は解除されましたが、本部のある大網白里市もとうとう初の感染者が出ました（七月十一日）。

ワーカーホームでは幸運にも感染者ゼロ！でここまでできました。マスクや消毒液など多くの方々からご寄付をいただきました。改めて御礼申し上げます。

六月から事業所毎の判断で長期戦対応に移して、新規の利用者受け入れ、対面での相談対応などが再開されました。しかし最近の感染者数の増加を見ると、四月の第一ステージ（感染拡大防止、活動自粛）に戻ることも念頭に置いた毎日となりました。

本号ではコロナから目を転じて前号でお約束をした居宅介護事業所「そら」の閉鎖に至った経過を検証します。（以下報告書の抜粋です）

（一）利用者の推移

創業（二〇一二年九月）から閉鎖（二〇二〇年三月）までに九十名が利用した。月毎の利用

者は最大で四十名であった。二〇一三年度の事業報告では「利用者への入れ替わりが多かった。サービス提供時間が利用者の希望に合わせられなかったことなどニーズに対応できなかったことが原因である。更に当日の利用キャンセルや入院等も多く、利用率の不安定な事業であった。利用者やご家族の苦労や気持ちの理解することに欠けていた」との記載がある。ここで指摘されていたことは、事業閉鎖まで続いた。

また、利用者の支援区分をみると、区分二と区分一で五十三・三％を占めている。

（二）サービス提供

七年半の活動期間を通して合計一六、八六二件の訪問を行った。初年度の事業報告書で「食事・排泄・通院などをサポートする身体介護を行なうと共に、調理・買い物・清掃などの家事援助を行っているが、家事は利用者と共に行うことが多く、殆どが身体介護扱いとなっている」と記録されているように、精神障害者に対する支援は家事援助ではあっても、共に行うこと即ち訓練の要素が大きな比重を占めていて、実施主体（市町村）も容認していた。

それが事業開始五年目から家事援助が七十％を超えるようになり、通算では家事援助は七十一・二％、身体介護は二十八・八％となる。

一方で、事業は月々土曜日で行われ一日一人当たりの訪問件数は、二・四四件であった。さらに地域特性として、利用者が点在し、移動は車を使って平均三十分を要した。

訪問時間では、家事援助・身体介護を通じて六十分が最多で、次いで九十分、三十分が多かった。

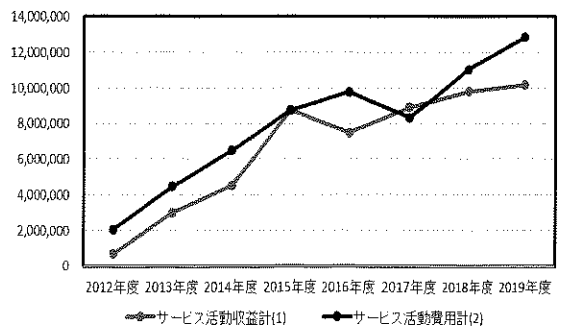
（三）収支状況

七年半の収支合計では、収入五、三三〇万円、支出六、三七四万円、一、〇四四万円の赤字である。年単位での黒字は二〇一七年度のみ（五八万円）であった。平均職員数三名とすると一人年間二三四万円の収入である。最も収入が多かった二〇一九年度でも四二七万円であった。因みに家事援助の報酬は六十分約一、九〇〇円、身体介護では約三、九〇〇円である（二〇一九年度）。

これでは常勤職員三名の配置を継続できない。その代替として登録ヘルパー制を検討したが、全国的に介護職員が不足している状況で一人の応募すらなかった。

（四）事業の意義

この事業の意義について事業を立ちあげた三好恵里子は二〇一二年度の事業報告で次のように記している。「訪問を重ねる中で、精神疾患以外に高血圧・高血糖等内科面に問題がある方が多いことがわかり、日々の食事支援やバイタルチェックなど健康面の支援も行った。就労事業所に通所できていても、居宅が不衛生で体調不良をおこしている利用者があるなど訪問することで知り得る情報が多く、訪問の重要性を感じた」。相談室で向かい合っているだけの地域生活支援には限界がある、という指摘であった。なお、三好は当時パンプキンハウスの施設長であったが、その後千葉拠点の統括施設長も兼務しながら二〇一七年までその施設長を務めた。



地域生活をしている利用者は具体的なサービスを求めているが、その生活実態は事務所ではわからない。パンプキンハウスが利用者宅への訪問支援を始めたことはごく自然なことであったが、相談支援事業として何度訪問しても制度上の報酬を得ることはできない。無償のサービスを障害者総合支援法の居宅介護事業として立ち上げ、報酬が伴う活動としたのが「そら」の事業であった。

(五)活動を通じての課題

精神障害者の居宅介護では、家事援助が中心となり報酬は身体介護の半分である。また、当日のキャンセルにも悩まされた。施設福祉から地域福祉への大きな流れの中で、居宅介護事業は、地域生活支援の主要なサービスである。しかし、居宅介護事業所の閉鎖が相次いでいるのは、低額な報酬体系に問題がある。そしてそのことが従事者不足とサービスの質の低下をさらに招いているのである。社会全体の大きな課題である。



鎌取相談支援センターセンター長 四方田 清

就任ご挨拶

令和二年四月一日付で、社会福祉法人ワーカーホーム（以下、ワーカー）、鎌取相談支援センター長に就任した四方田でございます。職種は、精神保健福祉士（MHSW: Mental Health Social Worker）です。どうかよろしくお願い申し上げます。

さて、私は、昭和五十五年精神病院（現、精神科病院）の精神科ソーシャルワーカーとして勤務し、同五十六年に千葉県精神衛生センターや保健所、千葉県健康福祉部障害福祉課、精神科医療センター（精神科救急医療）を経て、その後、順天堂大学にて精神保健福祉士の養成に関わって参りました。精神保健福祉領域における私のワーカー歴は約四十年となります。精神病院に就職した当時は精神衛生法の時代であり、もちろん精神保健福祉士という国家資格はありません。昭和五十九



年の宇都宮病院事件もリアルタイムで見えてきましたし、当時は「クロルプロマジン」という抗精神病薬が主流の時代で多くの入院患者さんは強い副作用に苦しんでいたのを思い出します。国内を見れば、精神障害者社会復帰施設が法定化され、「精神科病院から社会復帰施設へ」という流れが作られ、社会復帰のための中間施設があった時代で、院外作業と称する作業療法が多くの精神病院で行われていました。その後の精神保健法改正では、精神障害者を「社会復帰施設から地域社会へ」という流れをつくることにな

り、精神障害者のリハビリテーションがいつそう推進されることになりました。

そのような中、昭和五十六年に開設された東葛工芸センター（ワーカーの前身）は、当時「通院患者リハビリテーション事業（精神障害者の職親制度）」の委託事業所第一号として、担当相談員であった私はこの事業所を訪問し、寺田理事長と出会うことになりました。今振り返れば、私とワーカーの出会いは、正にワーカー設立と同時に始まっていたのです。ワーカーは「精神病院における入院治療中心の時代」に地域でどうやって障害者を支えていくのかを当初から実践してきました。さらに、地域社会に在宅の精神障害者支援のためのシステムの必要性を常に訴え、千葉県における先進的な地域精神保健福祉実践モデルの実現を試行錯誤しながら、事業の拡充を目指します。以降、法令は精神保健福祉法へ改正され、新たな関連法規として障害者自立支援法の成立、障害者総合支援法時代へと変遷します。



近年は、法人理事や評議員を仰せつかるなど、常により近いところで関わる事ができたことは私自身の貴重な経験となり、日ごろの業務だけでない部分で仕事を振っていただいたことに對して、公私ともに心から感謝の言葉を述べたいと思います。

このたび、鎌取相談支援センター施設長（センター長）としての大きな役割を担うことになるわけですが、今まで培った様々なネットワークを有効活用し、県内の相談支援事業所を活性化すると共に、ワーカーが実践する千葉拠点を中心に在宅精神障害者を対象とした地域生活支援の充実強化に尽力していきたいと考えます。また、専門職として法人内に勤務するワーカーの皆さんと共に学び、専門性を高め、資質の向上を目指す努力を積極的に行っていきたいと考えており、皆様方からのお力添えを切にお願いしたいと存じます。

書籍紹介
茂腹敏明著「市場メカニズムとDCF法で決める原簿選択の是非」ロギカ書房A5版三三七ページ定価三千元(税別)。公認会計士である著者には永年ワーカーホームの監事を務めていただきました。

COVID-19

新型コロナウイルス感染症を受けて 四拠点の今…

〔本部拠点居住系事業所〕

本部拠点の居住系では、次の通り新型コロナウイルス感染症予防を行っています。

- ・一日三回消毒を実施
 - ・マスク着用の徹底
 - ・一日二回検温の実施
 - ・手洗い、うがい、消毒の徹底
 - ・公共部分の換気の徹底
 - ・外出自粛
 - ・面会、外泊の禁止
 - ・代診又は遠隔受診支援
 - ・買い物代行支援
 - ・食事時間の調整(混雑防止)
- 利用者は、感染の不安だけでなく、外出自粛のストレスも抱えています。そのような中でホレブデイサービスセンターやワークショップしらすなどの職員が居住の場で直接サービスを提供してくれたり、散髪に行けない利用者のために美容師資格を持っている職員が散髪サービスを行なったりと、少しでも利用者の気分転換となるように取り組んでいます。
- また、マスクや消毒液の寄付をいただく等、ご家族や地



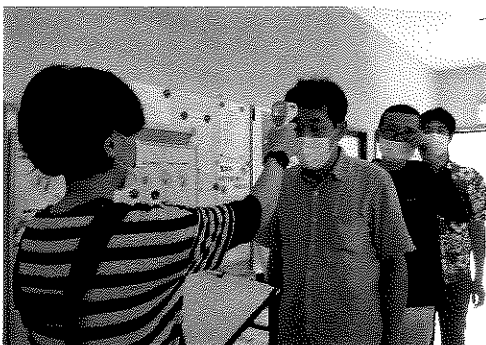
域の方のありがたみを感じています。特にホレブ寮には高齢の利用者もおり、持病がある方もいます。利用者、職員が協力をして感染予防に努めています。最初は手洗いや換気、マスクの着用の習慣がなく、徹底が難しく、何度も声かけをしていましたが、職員が一緒にやり続けたことにより最近では自ら手洗い、うがいを行っている利用者が増えてきました。

短期入所については、利用者、ご家族と相談の上で対応しています。利用希望の際は、お問合せ下さい。(武藤)

〔本部拠点日中活動系事業所〕

共通の対策

- ・手洗い・消毒の徹底
 - ・マスクの着用
 - ・三密を避ける
 - ・一日二回の検温の実施
- ホレブデイサービスセンター
- ・ワーカーホーム入居者(だいちを除く)と地域利用者の利用空間を分ける。
 - ・プログラムの縮小(買物ツアー等の外出は中止)
 - ・職員はホレブ・介護棟での支援はローテーションで支援していく
- 新規利用者については、来所前一週間の体調把握をした上で見学、体験利用を進める。
- ワークショップしらすと
- ・二グループ(A十時～十五時、B十一時～十六時)に分け一日の受け入れ。
 - ・三密にならないように作業場の配置換え
 - ・定期便は通常運行
 - ・新規利用者については、来所前一週間の体調把握をし



た上で見学、体験利用を進める。

定着支援事業は通常通りの支援

ワークショップおおあみ

- ・一日受け入れする
- ・常時ソーシャルディスタンスを保つ

パンキンハウス・山武ブリオ

- ・相談は通常通り実施(訪問、面談等の時間短縮するため事前に電話で情報収集する)
- ・来所面談時、必ず予約。
- ・検温、消毒してからの入館を周知・徹底する。

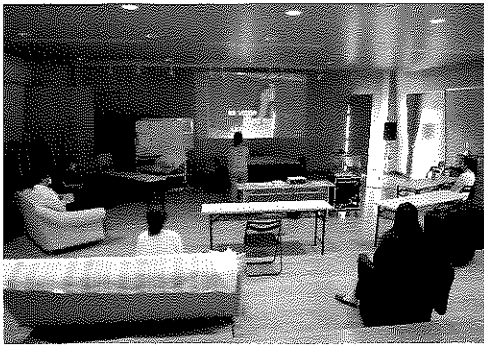
ソーシャルディスタンスをとるために配置の工夫などしています。そして職員・利用者と共に毎日、感染予防対策を意識しながら過ごしています。皆でこの状況を乗り越えたいと思います。(野老)

〔柏拠点〕

柏市は、東京都内通勤者が多く、常に都内の感染者数が多い状況が続いています。現在、柏拠点では以下のように、長期化への体制をとっています。

柏拠点共通の基本対応

- ・感染拡大防止行動(三密防止、手洗い、消毒、換気の徹底)、感染者発生時の対応を具体化、長期化によるストレス軽減、少人数でも継続可能な体制、を基本に運営しています。
- 1号館
- 利用者の健康状態の把握、ホール貸し出しは定員の半数で受け入れ再開。
- たんぼセンター地域活動支援センター
- 利用制限は無し。プログラムは密を避け工夫して実施。わたげワークス
- 利用者の作業時間は最長四時間に調整。作業を分散する。カフェは客席を半数にして通常営業。企業見学、企業訪問等の就労支援活動は可能な限り行う。
- 2号館
- ページブル
- 新規受け入れ実施。送迎は本数を減らし実施。



すくすく
 送迎は中止。通常開所。
 3号館
 エクラス
 利用者は通所を再開。検温は一日二回、食事時間をずらしリビングの密を避ける。都内などへ一般就労している利用者はアパートでの一時的生活を継続。短期入所は新規受け入れを再開。日常的な都内への移動の有無を確認して予約。
 みつばち訪問看護
 体調確認(三十七.〇℃以下)し、通常訪問。
 たんぽぽセンター相談
 通常営業。ただし感染リスクの高い場合や希望があった場合は電話での対応とする。引き続き、感染に十分気を付けながら、運営していきます。(小助川)

〈千葉拠点〉

新型コロナウイルス感染症につき、長期での感染防止対策期の七月以降の千葉拠点の取り組み。

基本方針は、利用者職員共に検温と記録を実施(三十七.五℃以上の場合には勤務や通所を休む)。マスク着用、手洗いや消毒の励行。事業所内一日二回以上の消毒実施。換気・ソーシャルディスタンスの確保です。

この方針に基づき、ワークショップ兼取では、地域利用者を受け入れ。利用中の感染予防として、作業台・更衣室・食堂・休憩室のレイアウト変更(写真の受注室は十四名に人数制限、ついたて設置)。朝礼・夕礼は一階と二階で分れて実施。接客用語斉唱、ラジオ体操は行っていない。昼食は食堂を十一名定員とし時間差で摂ることにしています。兼取相談支援センターは、感染防止対策を施した上での訪問や地域移行支援を実施。来所・訪問共に、事前に検温をしていた。三十七.五℃以上の場合はその日は会わないことにしています。

フジエールでは、外部への通所や就労、生活必需品の買い物並びに、これらの場合に限った公共交通機関の利用は



可。劇場、映画館、歓楽街の店舗利用は禁止、万が一利用の場合は自宅に二週間待機。帰省や外泊は自粛。訪問看護とご家族の相談室での面会は可の一方で来訪者の入館は禁止のままであります。三十七.五℃以上の熱発者は居室に留め職員が食事を運びます。食事は食堂の座席を横並びに配置し時間差利用としていきます。感染防止対策を施して通院は自己受診、見学・体験入居・入居を受け入れています。

各事業所とも、関係機関の方針やご家族、利用者の意向並びに、感染者数など地域の状況を注視し政府の方針を参照しつつ、感染予防対策と、利用者支援や利用者数の確保の両立を図るべく、職員一同「ウィズ・コロナ」に臨んでいます。(末永)

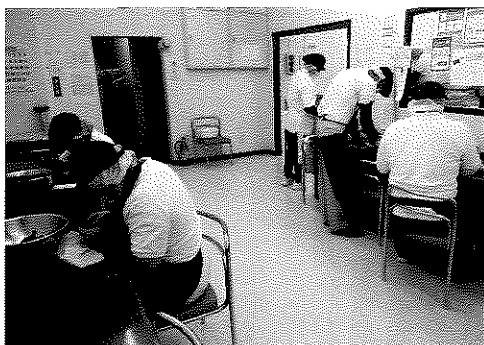
〈長生拠点〉

長生拠点は、長生地域生活支援センター・長生プリオ・ワークショップ茂原・ぶらりと四つの事業所があります。四月の緊急事態宣言を受け、各事業所で感染拡大防止対策を行いながら支援を続けてきました。

基本的な対策として一日二回の検温、手指消毒、換気、一日二回以上の事業所内の消毒を徹底して行うと共にイベントなどの行事関係は全て中止しています。

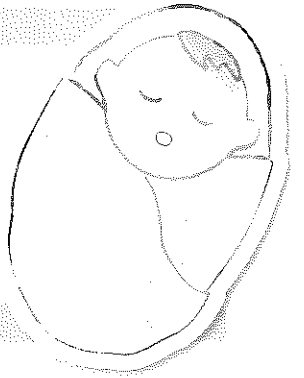
その他事業所ごとに行った対策として、①長生地域生活支援センターでは、四月、五月は、憩いの場を閉所、原則電話相談のみとして行いました。六月からは利用時間を午前と午後の各二時間に分けて開所しています。②長生プリオでは対面での支援を行わず電話での支援を続けながら、近隣の企業の状況や解雇される事がないかなど、新型コロナウイルスの影響による雇用状況の確認を行っていました。③ワークショップ茂原では、ページの営業は続けながらも、利用者は午前・午後の半日に利用時間を分けることで密にならないよう工夫するとともに、一部では在宅支援の方法

も活用しながら、より状況が深刻化・長期化する場合でも支援が途切れないよう準備をしてきました。④ぶらりでは、通所や通勤は継続していましたが、帰省や余暇、買い物等は自粛してもらい、受診も電話受診・往診などへ切り替るなど感染しないような取り組みを行いました。

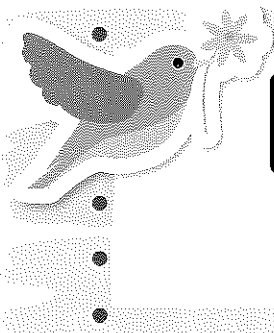


このように各事業所で感染対策を行い、人的に不足している事業所には拠点間で協力しながら、緊急事態宣言期間を乗り切りました。

長生圏域の茂原市でも感染者が発生し、職員・利用者共に不安を感じながらではありますが、出来る限りの感染防止対策を引き続き徹底し、絶対に感染者を出さないように取り組んでいきます。(橋本)



「すくすくハウス」 設立プロジェクト



求められる医療的ケア児の増加と成長への対応

社会福祉法人ワナーホームは、一九八一年に千葉県柏市の小さな作業所から出発し、障害があってもその人らしく、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、障害児者とそのご家族への支援を積み重ねてきました。必要な支援が必要ならに届くようにと願って続けてきた活動のなかで、いま届けたい支援は医療的ケアを必要とする子ども達とそのご家族を支える支援、やがて子ども達が大人になった時に必要な支援です。

近年の新生児医療の発達により、超未熟児や先天的な疾病を持つ子どもなど、以前なら生きることが難しかった子ども達であっても、助けられることが多くなってきました。その結果、痰の吸引や栄養の注入など、日々の暮らしの中で医療的ケアを必要とする子ども達（医療的ケア児）が増加し、その数は約一八、〇〇〇人を超え、ここ十年で約二倍となりました。私達が千葉県柏市で運営する「すくすく」は、そのような子ども達が安心して過ごせる場所を作りたい、二十四時間の緊張や不安を伴う医療的ケア児の子育てを少しでも一緒に担いたいと

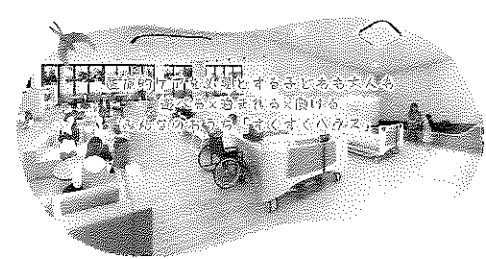
いう想いで設立された障害児通所支援施設です。子ども達は大きくなり、学校を卒業した後の仕事や居場所を必要としています。しかし、医療的ケアを必要とする方たちが働ける場、通い過ごせる場の資源はほとんどありません。そのような課題を解決するため

に「すくすくハウス」プロジェクトが始まりました。医療的ケアを必要とする子どもも大人も、安心して泊まれる、遊べる、働ける、みんながほっとできる場所、「すくすくハウス」の設立を目指します。通所施設だけでは行き届かない夜間のサポート体制を整え、医療的ケアを必要とするみんなが安心して働けるコミュニティカフェを併設します。カフェには接客や販売、提供する食事の材料となる農作物を作る仕事や広報の仕事など、みんながわくわくできる仕事が生まれ、医療的ケアに対応できるスタッフと働きやすい環境がそのお仕事を支えます。

医療的ケアが必要なみんなも、働き暮らせる未来をつくる「すくすくハウス」
医療的ケアに対応する地域の支援体制については、すでに各所で検討や取り組みがはじかれています。子ども達の増加や成長は、私たちの議論や制度が整うのを待ってはくれません。目指している「すくすくハウス」には、医療的ケアを必要とする方も働きやすい環境、家族と離れて泊まる時も淋しさを感じさせないお部屋、災害時にも安心できる医療設備を備える構想ですが、建設資金の調達が十分ではありません。しかし、この趣旨にご賛同くださる地域の皆様のお力をお借りして、このことを実現したいと思っております。必要なケアで区別されることなく、ひとりひとりの力を生かした仕事と安心していられる居場所がある、そんな場所がここから広がりますように。みんなで作る、みんなが働き暮らせる未来「すくすくハウス」設立プロジェクトは、十名以上のすくすく利用児童が高等部を卒業する二〇二三年度までの事業実施を目指して寄付活動をはじめました。想定される総事業費六億円のうち、二、五億円を寄付により調達することをめざし、毎月二、〇〇〇円からのマンスリーサポーターや募金箱を設置してくださるコミュニティサポーターを募集しています。また、ペジューブル柏の食パンを一斤ご購入いただくと五十円がプロジェクトに寄付されます。いろいろな方のいろいろな想い、それぞれ形での支援が集まって、すくすくハウスが出来上がるように、そこからどんな障害があっても安心して暮らせる地域が広がっていくように、この活動を覚えていただき、応援いただけますように、よろしくお願いたします。（大久保）



医療的ケアを必要とするみんなも、働き暮らせる未来をつくる「すくすくハウス」
医療的ケアに対応する地域の支援体制については、すでに各所で検討や取り組みがはじかれています。子ども達の増加や成長は、私たちの議論や制度が整うのを待ってはくれません。目指している「すくすくハウス」には、医療的ケアを必要とする方も働きやすい環境、家族と離れて泊まる時も淋しさを感じさせないお部屋、災害時にも安心できる医療設備を備える構想ですが、建設資金の調達が十分ではありません。しかし、この趣旨にご賛同くださる地域の皆様のお力をお借りして、このことを実現したいと思っております。必要なケアで区別されることなく、ひとりひとりの力を生かした仕事と安心していられる居場所がある、そんな場所がここから広がりますように。みんなで作る、みんなが働き暮らせる未来「すくすくハウス」設立プロジェクトは、十名以上のすくすく利用児童が高等部を卒業する二〇二三年度までの事業実施を目指して寄付活動をはじめました。想定される総事業費六億円のうち、二、五億円を寄付により調達することをめざし、毎月二、〇〇〇円からのマンスリーサポーターや募金箱を設置してくださるコミュニティサポーターを募集しています。また、ペジューブル柏の食パンを一斤ご購入いただくと五十円がプロジェクトに寄付されます。いろいろな方のいろいろな想い、それぞれ形での支援が集まって、すくすくハウスが出来上がるように、そこからどんな障害があっても安心して暮らせる地域が広がっていくように、この活動を覚えていただき、応援いただけますように、よろしくお願いたします。（大久保）



カトレア会便り

毎年、カトレア会は春に総会や勉強会等を行い、秋にご家族同士の交流会を行っています。今年度は、新型コロナウイルス感染症予防に伴い、活動を自粛しております。そのため、今回のカトレア会便りは、新会長の挨拶や役員の変更を掲載します。

会長挨拶

皆さま、こんにちは。この度、カトレア会の新会長になりました日野大華（ひろか）と申します。

私は、弟がワナーホームに入所したことがきっかけでカトレア会に入りました。

私の弟は、十五年前にトラックの信号無視による交通事故で外傷性くも膜下と頭に強い衝撃を受けたことにより身体障害者になってしまいました。弟は、事故により以前とは全く変わってしまい、話をしていると全然違うことを話したり、突然怒りだしたりして私は理解に苦しみました。脳神経外科を受診すると、その当時はまだ世間にはあまり知られていなかった高次脳機能障害と診断されました。そこで紹介してもらい、グループホームに入所することが出来ました。

入所して初めてのイベントに私も参加した時にカトレア会の方に声をかけていただき、お話ししたら

その方の息子さんも高次脳機能障害と知りました。私は同じ境遇の方がいるカトレア会に入会しました。カトレア会に入って、同じ悩みをもつ方々とお話をする心が本当に軽くなりました。

少しでも皆さまのお役に立てればと思い、カトレア会の理事をお受けしてこれまで活動してきました。本年より会長を務めてまいりますので、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

役員改選

本年は、定時総会で協議するはずでした議案の表決を皆さまに書面表決で行うことになりました。皆さまから郵送にて返信をいただき、承認をいただくことが出来ました。大変ありがとうございました。総会準備にあたりまして、役員も直接集まることができません、オンライン会議やメール、電話での打ち合わせで協議を重ねました。役員体制につきましては、本来五月で任期満了となり、総会で新しい役員を選出するはずですが、総会が開けなかつたので、全役員がオンラインで協議を重ね、新体制になりましたので、ここで紹介させていただきます。

- 会長 日野 大華
- 理事 伊藤 法子
- 理事 古川 廣中（新任）
- 監事 萩原 京子
- 監事 大屋 祥子

前会長の小川伸子さんにも大変お世話になりました。今年度よりこの五名で頑張つてまいりますのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

カトレア会は、形式ばつた会ではなく、家族が同じように障害を持つていらっしゃる方々の家族会です。一人で抱え込んで苦しまないで少しでも心が軽くなるよう交流を重ねていきたいと思ひます。様々な課題を抱える家族がともに励まし合い、楽しく交流できるカトレア会にしていきたいと思ひます。

交流会中止

毎年九月に行われているカトレア会交流会は、コロナウイルス感染症予防を考慮して中止とさせていただきます。早くコロナウイルスが収束して皆さまにお会いできる日を楽しみにしております。

ワナーホームにおいても、一人も感染者を出さないとの想いで、職員の間が一致団結して感染予防に徹底して取り組み、力を尽くしてくださることにカトレア会を代表して心より感謝申し上げます。

皆さま、これからもカトレア会で仲良く励まし合い、交流を深めてまいりたいと思ひますのでよろしくお願ひ申し上げます。

カトレア会(家族会) 入会ご案内

カトレア会は、社会福祉法人ワナーホームの家族会で、「①精神障害者の親の悩みは切実なものであり、同じ悩みを持つ者が、慰め合える機会が欲しい ②社会復帰を目指す利用者に対し側面的な協力も考えていかなければならぬ」という目的で平成元年にご家族の有志によって立ち上がりました。

総会だけではなく、勉強会、交流会などで家族同士の顔が見える関係、同じ悩みを共有できる機会となっております。交流を通して、情報交換を行い、利用者の今後を考えます。また、ワナーホームへ要望を出し、利用者が安心して過ごせることを見守り続ける役割も担っています。

なお、年会費は三千元です。皆様のご入会をお待ちしております。

(武藤)

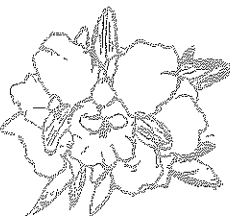
学生応援 制度創設

「新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い国から緊急事態宣言が発出され、外出自粛や休業要請などによって、学生の皆さんの中には、アルバイト先を失い学業を継続することが困難となっている方も多いのではないかと危惧し、社会福祉法人ワナーホームでは、五月に学生応援制度（給付型奨学金）を創設いたしました。この制度は、学生の生活と就学を支援すると共に、卒業後の就職先（社会福祉法人ワナーホーム）を提供することを目的としています。

制度の対象は、四年生大学の四年生。支給内容は、月額五万円（支給決定月から来年三月まで）。卒業後、三年間、ワナーホームでの勤務を条件とします。

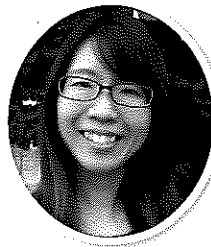
八月末で二次募集は、終了しましたが、長期化している新型コロナウイルス感染症の影響下の中、この制度の延長も検討しております。最新の情報は、ホームページをご覧ください。
<http://www.wanahome.or.jp>

緊急事態宣言は解除され、長期化を想定した新たなステージとなり、大学では、講義やテスト等、オンラインで行われていると聞いています。新しい生活様式を定着させていかなければなりません。ぜひ、学生応援制度を活用していただき、一緒にこの状況を乗り越えていきましょう。貴重な学生生活を応援しています。



(高木)

ワーナーホーム ワーキングママ



相談支援事業所
パンプキンハウス

相談支援専門員

三好 美瑞

(精神保健福祉士)

●● 1日の流れ ●●

| | |
|-------|-------------|
| 6:30 | 起床 身支度・朝食 |
| 9:00 | 出勤 |
| 18:00 | 退勤 |
| 19:00 | 帰宅 夕食・入浴 |
| 22:00 | 子ども就寝 洗濯・掃除 |
| 24:00 | 就寝 |



親子ともに食べるのが
遅いので我が家の
食事時間は長めです

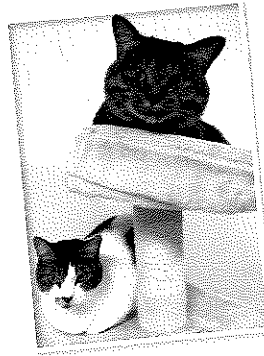
家事は夜のうちに済ませます。
クイックルワイパーは重要アイテム!



今年で5歳に
なりました



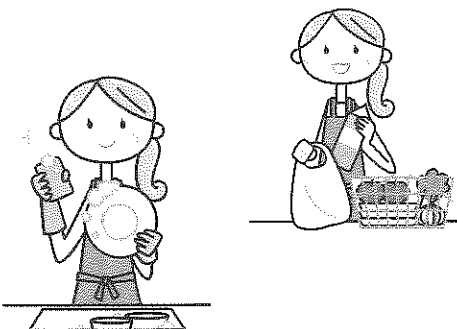
ワーナー出身の
保護猫たち



そんな中で、私を励ましてくれたのは利用者達でした。子どもを職場に連れていけば、みんなが声をかけてくれて、

二〇一二年四月にワーナーホームに入職し、丸八年が経ちました。二〇一五年六月二十五日に長女を出産し、一年間の育児休暇を頂いた後、翌年六月に職場復帰し、私はワーキングママの仲間入りとなりました。ホレブ寮への職場復帰後、九月からはだいちへ異動となり、翌年四月からは、サービスマン管理責任者として配置となりました。
私は、利用者の生活そのものを支える居住施設で働くことがとても楽しく、いきがいに感じていました。ワーナーホームへの入職も、ホレブ寮での実習経験がきっかけです。しかし、小さな子どもを育てながら、居住施設のサービスマン管理責任者として働くことは想像を絶する大変さでした。入職後、初めて仕事を「辛い」と感じました。夜間・早朝・休日の職場からの電話や呼び出し、急な宿直などに対応しながら、利用者の安全な生活も、家庭の時間もどちらも大切にしたいという思いがあり、ワーク・ライフ・バランスに悩みながらの一年間でした。

可愛がつってくれました。子どもの誕生日には、お手紙を書いてくれたり、声をかけてくれたり。パンプキンハウスに異動となつてからも、顔を合わせれば「いくつになつたの？また連れてきてね。」と声をかけてくれます。私も、子どもも、ワーナーホームという大家族の一員なのだと感じていきます。
現在は、パンプキンハウスで相談支援専門員としてお仕事をさせて頂いています。仕事のスケジュールに融通が利くようになった為、少し肩の力を抜いて働けるようになりました。育児と仕事のバランスを保ちながら、私と、私の家族を見守り育ててくれているワーナーホームに御恩をお返ししていけるよう、日々精進していきます。



わーなー日記 《わたげワークス》

新型コロナウイルスの影響で事業所は縮小開所、カフェペジブルは四月六日～六月三日まで休業となりました。休業期間中にペーカリー店舗前でテイクアウト販売を実施しました。人気のカレーやペジブルオリジナルドレッシング付きのサラダ、ブレンドコーヒー、普段カフェで提供している商品を販売しました。



ペーカリーのお客様へ配布するチラシの用意やテイクアウト商品の準備に追われる日々が続きました。通常とは異なる準備の中、普段カフェに携わっていない利用者も含めて一緒に準備を進め、最初は皆が緊張・戸惑う様子もありましたが徐々に慣れていきました。ドリンク作り



では何度も水の数を確認する姿、接客では大きな声であいさつや呼び込み、丁寧に接客する姿、忙しい時でも素早く対応する利用者の姿にたくましさを感じました。特に就労移行支援の利用者にとっては、今後の企業実習や就職に向けての第一歩となる「訓練の場」となったのではないのでしょうか。そして、毎日大変な日々でしたが、その日の売上をみんなで共有することで、達成感を分かち合えた時間であったと思います。

新型コロナウイルスの影響により通常営業できない状況の中で、普段見ることができない利用者の姿を知る機会になったと感じています。

(内木)

ワナーホームの主な動き

- 七月
 - ・七夕飾り/だいち

《八月》

- ・在職者交流会/長生ブリオ
 - ・精神障害者向けのピア交流会/山武ブリオ
 - ・夏レク/新ホレブ寮、クロワール、ファミーユ、シエスタ、ノバハイツ 白里
- ※予定していた行事は新型コロナウイルス感染症拡大予防により中止になりました。

寄付・会費を

くださった方々

令和二年四月～令和二年六月

《寄付》

久保田文造 川口敏子

《イキシア会員》

《正会員》

- 鈴木とし子・高田敏・丹澤正直
- 矢沢義男・川津仁子・林敬三
- 椎名壽康・大森民人・萩原衛
- 武本三枝子・君和田かつ子
- 皆川利昭・竹内伸夫・中村卓
- 足立昭子・川名茂喜・小川伸子
- 俵木康直・村田和雄・谷次敏雄
- 寺田美代子・石塚多美子
- 林日出夫・茂腹敏明・陣内操子
- 若菜良子・工藤秀久・説田彦
- 高瀬久美子・寺田多美江
- 金川洋・藪崎歌子・吉田芳司
- 島村勝巳・松田立志・河原照子
- 大屋祥子・富澤祀男・大村秀樹
- 田中孝放・小川泰司・森敏幸

久保田文造 (株)中建築設計事務所

特定非営利活動法人リンク

特定非営利活動法人ウイズ

社会福祉法人創志会

ザイクスビル長南

佐藤樹脂工業有限公司

医療法人社団わかさ会南八街病院

《賛助会員》

大田明進・吉井和弘・細矢正則

松原宏・吉村義信・鈴木隆夫

譜久山直美・飯田忠・青木栄

海沼邦彦・渡邊晋作・石田旬江

伊知地眞理子・村井誠・山田明

木村末治・三橋富蔵・小島初恵

遠藤雅子・湯浅真純・成嶋武士

三田久子・古川廣中・世戸浩司

布施良子・秋山茂樹・鈴木洋子

大橋洋子・西山絃子・村上テイ

松田利子・酒井和子・石塚鑑司

田村悦子・小嶋哲夫・島田栄子

佐近麻里子・宮負栄・松橋寛

近藤龍雄・花嶋禎一・斎藤勝義

清野恵美子・森眞一・渋谷嶺

伊藤千尋・内山潤哉・久田正次

佐藤節夫・猫田陽子・齊藤順子

小西小夜子・林重充・安倍進

秋葉行子・増子恵子・林敬三

望月千恵子・丸山多恵子

宮尾美代子・齋藤佐貴子

石塚多美子・岩下新太郎

株式会社いしばし

館山メンタルクリニック

大網白里市社会福祉協議会

医療法人社団千歯会大網歯科

医療法人同和会千葉病院

特定非営利活動法人野花の会

サンムパッケージ株式会社

謙取メンタルクリニック

特定非営利活動法人にじと風福祉会

千葉セントラル神経科クリニック

特定非営利活動法人しゃくやく会

市原地域生活支援センターはばたき

イキシア入会のご案内

イキシア会は利用者とそのご家族及び一般有志からなるワナーホームの支援団体です。活動においてご理解をいただき、ご支援・ご協力を賜ります様宜しくお願い致します。

広報イキシアは年三回(一月・五月・九月)発行されます。

《会費》

賛助会員 三,〇〇〇円(年)

正会員 一〇,〇〇〇円(年)

編集後記

季節は夏から秋へと移っていきますが、コロナウイルス感染症の感染者は少なくなることもなく増えているようにも思います。ワナーホームとしても感染対策を心掛けながら動いています。皆様の生活はどうですか?そんな話ができる環境になったらいいなと思いつつ生活しています。どうか体調にはくれぐれもご注意ください。(A)

発行所

ワナーホーム
イキシア会

千葉県大網白里市細草3215

電話

0475-77-2100(代)

URL

http://www.wanahome.or.jp

発行人

寺田 一郎